
ふなばし

アート
カード

FUNABASHI
ART CARD

船橋市所蔵作品をアートカードにした
オリジナル美術鑑賞教材



目次 contents

ふなばしアートカードについて……………	2
アクティビティ紹介 1 共通点をさがせ!……………	3
アクティビティ紹介 2 つながる、物語づくり……………	4
アクティビティ紹介 3 お気に入りを教えて……………	5
アクティビティ紹介 4 名探偵ゲーム……………	6
アクティビティ紹介 5 展覧会をやってみよう!……………	7
アクティビティ紹介 6 オノマトペ・クイズ……………	8
アクティビティ紹介 7 アートカードしりとり……………	9
アクティビティ紹介 8 いろやかたちをみつけよう!…	10
作品紹介……………	11
船橋市所蔵作品について……………	55

ふなばしアートカードについて

「ふなばしアートカード」は船橋市所蔵作品から船橋ゆかりの作家の作品や名画など44点をポストカードの大きさのカードにしたオリジナルの美術教材です。カードを使ったアクティビティの中で作品を「みる、考える、話す、聞く」活動を通し、美術鑑賞の基本を学ぶことができます。

船橋市では対話型鑑賞教育推進事業として、市内の小学5年生を対象に図工の授業でアートカードを使った対話型鑑賞教室を実施しています。これらのアートカードを使ったアクティビティを通じて楽しく美術鑑賞を学びます。また鑑賞教室を運営する為に、事前に研修を受けたファシリテーターが活動しています。授業では3～4名の児童のグループに1名のファシリテーターが入り、児童の考えを引き出し言葉にすることを手助けしています。このような活動を通して子供たちが地域の美術や歴史に親しみ、文化芸術を鑑賞する力を育むことを目標としています。

ふなばしアートカードの使用方法

44枚のカードはカードの色で二つのグループに分かれています(小冊子にはGroup AとGroup Bと表記しています)。すべてのカードを使っても、半分の22枚を使っても活動は可能です。参加する人数とスペースに応じてカードの枚数を選んでください。カードはグループごとにそれぞれ「風景」「人物」「静物」「抽象」という4つの項目で分類されており、それぞれバランスよく作品が取り揃えられています。

共通点をさがせ!

2つの美術作品の共通点を探します。

作品をよく見て、共通する色やかたちなどの特徴をとらえ、言葉で伝えるアクティビティです。

【対象年齢】小学校中学年～高学年 【プレイ人数】2～4人



- ①アートカードを表向きにして並べます。
- ②カードを眺め、共通点のある2枚を選びます。
- ③順番を決め、それぞれ発見した共通点を説明します。

【ねらい】

- ◇作品をよく見て観察することができます。
- ◇色やかたち、作品の特徴をとらえ、分類する力がつきます。
- ◇共通する特徴を言葉にして伝える力がつきます。

【活動の工夫】

- ◇年齢に応じて難易度を調整することができます。例えば、裏向きのカードを3枚引き、その中から2枚選んで共通点を探します(小学校高学年)。

つながる、物語づくり

アートカードの作品をつないで、グループでひとつの物語をつくります。作品の特徴をとらえ、グループメンバーの話をよく聞き、関連させて物語を構成し、自分の言葉で表現するアクティビティです。

【対象年齢】小学校中学年～高学年 【プレイ人数】3～4人



- ①手持ちのカードを5枚配り、残りは場の中央に伏せて山にします。
 - ②順番を決めたら、最初の人が手持ちのカードから1枚出して「はじめ」の物語を作ります。
 - ③次の人が、手持ちのカードから出して続きの「なか」の物語を作ります。
 - ④3枚目の人で「終わり」の物語でオチをつけます。
- ※手持ちのカードで出すものがなければ、中央のカードの山から1枚引く。

【ねらい】

- ◇作品の特徴をとらえ、イメージを想像して、物語を作っていく力がつきます。
- ◇グループで協力して、物語をつなげることで、相手の発言を聞く力がつきます。

【活動の工夫】

- ◇すべてのアートカードを表にして広げ、その中から3枚選び、一人で物語を作り発表します(小学校低学年向け)。
- ◇1枚のカードを選びその中から物語を作り、文章で記します(一人の活動)。

お気に入りの教えて

アートカードの中からお気に入りの作品を見つけます。
作品から感じ取った美しさや良さ、自分なりの意味や価値を
言葉で整理して伝えるアクティビティです。

【対象年齢】どなたでも 【プレイ人数】2人～



- ①すべてカードを表向きにして並べます。
- ②すべてのカードの中から好きな作品を選びます。
- ③順番に、その理由を話します。

【ねらい】

- ◇対象から感じた形や色、イメージなどを基に、主体的に良さや美しさなどを感じ取ったり、自分なりの意味や価値をつくり出し、言葉で整理して伝えたりする力がつきます。
- ◇グループのメンバーの見方や感じ方を、お互いに知ることができます。

【活動の工夫】

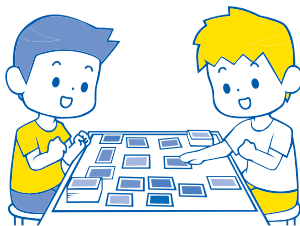
- ◇自己紹介などのアイスブレイクのアクティビティなどもおすすめです。
- ◇選んだ作品を使って鑑賞文を作成することで言語活動を充実させることができます。
- ◇アートカードの作品や作家について詳しく知りたい場合は作品紹介(pp.11～54)や「船橋市デジタルミュージアム」をご覧ください。

名探偵ゲーム

どのカードを選んだのか？

描かれていることについて質問しながら当たりのカードを推理します。

【対象年齢】小学校高学年以上どなたでも 【プレイ人数】3人～



- ①カードを表にして並べます。
- ②グループのなかで親の役割を担う人を決めます。親は任意のカードを1枚選びます。これは他の人には教えません。
- ③他の参加者は親にカードについて「Yes/No」で答えられる質問をします。
- ④全員質問したところで、答え合わせをします。全員で一斉に指をさします。
- ⑤親が選んだカードを当てられたら終了。当てられなかったら、質問を繰り返します。

【ねらい】

- ◇絵をよく見て、色や形などのモチーフに注目します。
- ◇言葉による表現力が豊かになり、推察する力が付きます。

【活動の工夫】

- ◇親役の人がヒントを与えると発見が近づきます。

展覧会をやってみよう!

3枚のカードで展覧会を作り、発表します。

【対象年齢】どなたでも 【プレイ人数】2～6人



- ①カードを表にしてならべます。
- ②展覧会のテーマを決め、テーマにあったカードを3枚選びます。
- ③展覧会の名前を決めて、カードを選んだ理由や展覧会のメッセージなどを発表し合います。

【ねらい】

◇テーマに沿って作品を選び関連付けてメッセージを伝えます。

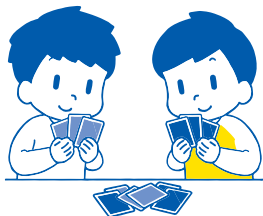
【活動の工夫】

- ◇テーマは教師や指導者が事前に提示してもよいでしょう。
- ◇一人で活動する場合は、展覧会のメッセージや選んだ理由などを文章で記します。

オノマトペ・クイズ

オノマトペ(擬音語・擬態語)の言葉に当てはまるカードを探します。

【対象年齢】小学生 【プレイ人数】3人～



- ①親の役割の人がオノマトペを選びます。
- ②参加者はオノマトペの言葉にあったカードを選びます。
- ③順番に発表して、選んだ理由を説明します。

【ねらい】

◇作品全体のイメージを捉え、言葉にすることができます。

【活動の工夫】

◇オノマトペのかわりに、オリジナルの言葉を選ぶことも可能です。絵のなかからセリフや詩などを考えてみてもよいでしょう。

アートカードしりとり

カードに描かれているものを言葉にして、しりとりをします。

【対象年齢】小学生以上 【プレイ人数】2～6人



- ①参加者にカードを5枚配ります。残りのカードは裏にして中央に置きます。
- ②順番を決めて、最初の人は手持ちのカードから1枚選び、表にして場の真ん中におきます。描かれていることを見て言葉を作ります。
- ③次の人は前の人が出した言葉のしりとりになる言葉を手持ちのカードから見つけ、そのカードを出して説明します。手持ちのカードがなければ、中央のカードの山から1枚とります。
- ④手持ちのカードがなくなったら終わります。

【ねらい】

- ◇絵のイメージから言葉を探すことができます。
- ◇絵を隅々までよく見るできるようになります。

【活動の工夫】

- ◇すべてのカードを表にして言葉にあったカードを順番に探します（低学年対象）。

いろやかたちをみつけよう!

カードの絵から色や形を発見します。

【対象年齢】未就学児～小学校低学年 【プレイ人数】2人～



- ①すべてのカードを表にします。
- ②教師や指導者が指し示した色や形があるカードを探します。
- ③発見した色や形を順番に発表します。

【ねらい】

- ◇イメージのなかから色や形を見つけることができます。
- ◇作品を造形的な視点からよく見ることができます。

【活動の工夫】

- ◇低年齢層向けのアクティビティのため、教師やファシリテーターなどアクティビティを進行する大人のサポートが必要になります。
- ◇「赤色の丸」な色と形の2つの条件を満たすものなど探すテーマを複雑にすると難易度が上がってきます。

どんなことが起きていますか？
それはどこからそう思いますか？

No.1

Group.A



あらい けいこ
荒井 恵子 (1963-)

こだい えー
古代 (A)

2006(平成18)年
墨・藍染の廃液・柿渋／和紙
135.5×162.2cm

荒井恵子は船橋市で活動している現代美術作家です。この作品は2006年に船橋市飛ノ台史跡公園博物館で行われた縄文時代をテーマにした展覧会に出品するために制作されました。作者は古代という果てしない過去の時間を、墨と和紙、そして藍染の廃液、柿渋の色といった日本古来から伝わる自然の素材を使って表現しました。この作品では日本の大地から伝わる生命力という目に見えないものを抽象的に描いています。

山奥の崖で休む鳥の羽色の美しさと
花の色鮮やかさが自然の豊かさを感じさせてくれます。



いしい はくてい
石井 柏亭 (1882 - 1958)

きじ
雉子

制作年不詳
絹本着色
144×42cm

石井柏亭は下総金堀町(現在の船橋市金堀町)出身で幕末期に江戸で活躍した絵師・鈴木鷺湖(1816-1870)を祖父に持つ船橋ゆかりの画家です。はじめ日本画、そして後に油絵を学び、大正・昭和期の日本近代美術を代表する画家となります。清川家に伝来したこの作品は柏亭にとって珍しい日本画の作品で、洋画を学ぶ以前の祖父や父からの影響を見て取ることができます。

秋の林で遊ぶ2頭の鹿が描かれています。
秋晴れのすがすがしい空気の中
ゆったりと流れる時間を感じさせます。



(左隻)

いしい りんきょう
石井 林響 (1884 - 1930)

しゅうりんそうか
秋林双鹿

1925(大正14)年
紙本金地墨画淡彩
六曲一双
163.5×345cm

日本画家の石井林響は旧制千葉中学校で学び、絵の道に入りました。晩年は現在の大網白里市で暮らし、歴史画から牧歌的な風景画へと画風を変え、多様な作品を制作しました。この作品では、金箔で覆われた画面に、こんもりとススキが浮かび上がり、左右の隻を並べると、堂々とした木の幹が現れます。2頭の鹿や枝にとまる鳥からは、ゆっくりと流れる時間が感じられます。

※アートカードは左隻のみになります

壁が崩れかけ、窓枠が外れた建物が描かれています。
この風景はいつの時代、どんな場所を
表しているのでしょうか？



いせき きんいち
居関 金一 (1919 - 2008)

はいきょ
廃墟

1952(昭和27)年
油彩／カンヴァス
145.2×112cm

居関金一は戦前、東京高等工芸学校(現在の千葉大学工学部)に学び、戦後は小学校の図工の教員として子どもたちの指導にあたりながら、自身の創作活動を続けました。船橋に居住し、船橋市美術連盟の会長もつとめ、地域の芸術の発展にも尽力しました。本作品には、赤レンガの建物が崩れ地面にはレンガが積まれており、窓枠もはずれて荒廃した場所が描かれています。どこか外国の風景のようにも、日本の西洋風の建築のようにも思える、国籍がわからない空想の場所のようです。

ひとびとが右手に向かって一斉に歩いていきます。
何が起きているのでしょうか？



いそだ ちょうしゅう
磯田 長秋 (1880 - 1947)

たいしょうしんさいもくはんしゅう うんそうばしゃ(きょうばし)げんが
大正震火災木版画集 運送馬車(京橋)原画

1923(大正12) -
1924(大正13)年
絹本着色
59.9×45.5cm

この作品は船橋に居住した日本画家・磯田長秋が、自身が体験した1923年の関東大震災の様子を描いたものです。建物が崩れ落ち電柱が傾いている瓦礫の中を、家財道具を馬車で運び避難する人々の姿が表現されています。これは『大正震火災木版画集』という震災の様子を描いたシリーズ版画のための原画になります。この作品は当時の画家たちが震災に対してどう向き合ったのかを教えてください。

桜の下でのんびりお花見をしています。
穏やかな春の一日が描かれています。



いそだ ちょうしゅう
磯田 長秋 (1880 - 1947)

だいごのはなみ
醍醐乃花見

1937(昭和12)年
絹本着色
132×36cm

「醍醐の花見」は豊臣秀吉が1598年に京都の醍醐寺で開いた花見の宴で、秀吉の家族や諸大名からその配下の家来まで約1300人が参加した華やかなものでした。この作品は歴史画を得意とした磯田長秋が「醍醐の花見」の出来事を独自に解釈したイメージで描いたものになります。時の天下人が催した花見は大変にぎやかなものだったと思われませんが、この作品では小姓や家来を伴った秀吉がひっそりと桜の花を愛でている様子が印象的です。

花瓶の表面全体に花の文様があしらわれています。
自然の造形がデザインされた美しい作品です。



いたや ほん
板谷 波山 (1872 - 1963)

ひょうかさいじからはなもんかびん
氷華彩磁唐華文花瓶

1926(大正15)年 磁器
サイズ:口径17cm
胴径24cm
高さ19.2cm

板谷波山は明治後期から昭和中期にかけて活動した陶芸家です。東京美術学校(現在の東京芸術大学)彫刻科に入学し、岡倉天心や高村光雲等の指導を受け、金沢の学校で彫刻を教えました。その後、彫刻科が廃止されたことに伴い、陶芸科に転籍となり、本格的に陶芸に取り組みます。この作品は磁器の全面に花や草の形を連ねた唐草文様を施し、多くの色を彩色して制作した陶磁器です。草花の彫文様の線の自在さは彫刻を学んだ作者の特徴をよく示しています。

網を高く掲げた子どもたちが海辺を走っています。
何をしているのでしょうか？



いで ぶんぞう
井出 文蔵 (1928 -)

ばんき
晩帰

1988(昭和63)年
切り絵
66.6×101.2cm

井出文蔵は船橋市で暮らす切り絵作家です。本作品は船橋の干潟三番瀬に取材したもので、船橋市勤労市民センターのホールの緞帳の原画になります。ある日の夕暮れ、海の仕事から帰って来る女たち、網を掲げてトンボを狙い走り回る子どもたちの平穏な日常。この風景はかつて漁村だった三番瀬の人々の暮らしを伝えてくれます。

微笑みをたたえた女性が花見をしています。
春のあたたかな空気を感じさせる作品です。



うえむら しょうえん

上村 松園 (1875 - 1949)

しょうえん その

上苑の園

1910(明治43)年頃

絹本着色

47×55.5cm

上村松園は京都生まれの日本画家です。気品あふれる美人画を得意とし、本作品では美しい女性が桜の花を愛でる姿が描かれています。上苑とは宮中という意味で、この作品の舞台は宮中の庭園であることが想像できます。また、女性の着物や化粧から描かれた人物は身分の高い貴人であることもわかります。

この作品は銅板を腐食させて線を彫り出した銅版画(エッチング)という技法を使った版画作品です。



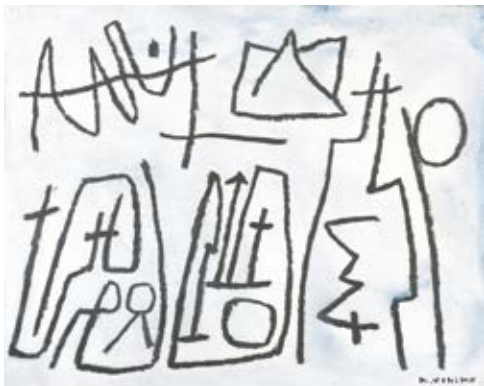
うしく けんじ
牛玖 健治 (1922 - 2012)

はな
— 花 —

制作年不詳
エッチング/紙
41.6×29.5cm

牛玖健治は千葉県佐倉市に生まれ、東京美術学校(現在の東京芸術大学)で油彩画や彫刻を学びます。卒業後は銅版画の技法を独学で学び、国際的な展覧会で活躍。1951年に船橋市湊町小学校の図工専科の教員になります。本作品は花瓶に生けられた花束の絵を銅版画(エッチング)の技法で制作したもので、硬質な線描による花の表現と平面的なテーブルクロスデザインのデザインがあいまって装飾的な作品に仕上がっています。

白い地に黒い線がいくつも描かれています。
丸や三角、四角、何がでてきますか？



うしく けんじ
牛玖 健治 (1922 - 2012)

むだい
無題

制作年不詳
油彩／カンヴァス
73.2×91.2cm

白い地に黒の線で、丸や三角、そのほか抽象的な線が描かれています。あなたはここから何が見えますか？牛玖健治は一時期、縄文の文化や古代文明などに関心を寄せ、プリミティブ(原始的な)表現に取り組みます。本作品では古代の形象文字をイメージさせる線による単純な表現で人物や風景を描き出そうとしています。作者にとっては一本の線で表現できることを追求することが生涯のテーマだったようです。

このピエロはどんな気持ちですか？

悲しいかな、うれしいかな、あなたはどのように思いますか？



うしく けんじ
牛玖 健治 (1922 - 2012)

むだい
無題(ピエロ)

制作年不詳
油彩／カンヴァス
73.2×52.8cm

戦後、船橋市立湊町小学校の図工教師となり船橋に移り住んだ牛玖健治はピエロや道化師をテーマにした人物画を多く描きます。本作品もそのなかのひとつで、水色の背景のなかにたたくむ一人の人物がいます。とんがり帽子とパーマのかかったような髪の毛からピエロのような装いを感じさせます。

いろいろな暮らしがあるけれど、同じ空の下で営まれている。
この写真はそのようなことを教えてくれるのかもしれない。



きたい かずお
北井 一夫 (1944 -)

1984 (昭和59) 年
ゼラチンシルバープリント
25.2×37.6cm

フナバシストーリー 001

〈フナバシストーリー〉(1983-1987) は写真家・北井一夫が1980年代前半の船橋の団地などの新興住宅地で暮らす人々の生活を撮影したシリーズです。1980年代の船橋市は東京郊外のベッドタウンとして団地などの新興住宅地の開発が進み、人口が急増しました。そんな中、船橋市が北井氏に「生活する人たちと町の写真を撮ってほしい」と依頼したことがきっかけで撮影が始まります。数年かけて撮影された写真には、時代の変化の中にある市民の営みが鮮明に切り取られています。これらの風景はこの地で育った人々にとって「故郷の風景」と言えるものです。空を写した本作品は〈フナバシストーリー〉の最初を飾るものです。

団地から続々と人がでてきています。
郊外から東京へ向かう船橋の朝の通勤、通学の様子です。



きたい かずお
北井 一夫 (1944-)

1987(昭和62)年
ゼラチンシルバープリント
25.2×37.6cm

フナバシストーリー 016

〈フナバシストーリー〉は都市近郊の人々の暮らしを撮影した写真シリーズです。ここでは朝、団地から駅かバス停に向かうためにせわしなく歩いているサラリーマンや学生の姿が見られます。団地や空の白さが明るい朝の光景を表しているようです。80年代の船橋という郊外の風景を切り取った1点です。

隙間なく人が埋まっているこの場所はどこでしょうか？
人々はどこに向かっているのでしょうか？



きたい かずお
北井 一夫 (1944-)

1987(昭和62)年
ゼラチンシルバープリント
25.2×37.7cm

フナバシストーリー 025

本作品は都市近郊の人々の暮らしを撮影した〈フナバシストーリー〉のシリーズのなかの一点で、朝の通勤時のサラリーマンであふれる船橋駅の混雑の様子を撮影したものです。作者は船橋らしい風景を撮影してほしいという依頼に応え船橋駅を取材しました。

内側は桜、外側には紅葉。

ひとつの器のなかに春と秋のふたつの季節が表現されています。



きたおおじ ろさんじん
北大路 魯山人 (1883 - 1959)

いろえうんきんおおはち
色絵雲錦大鉢

制作年不詳

陶器

口径35.7×高さ20.6cm

明治から昭和にかけて活躍した、書画や陶芸を制作する芸術家であり料理家、美食家でもあった北大路魯山人の作品です。大振りの鉢の内側には桜、外側には紅葉と、春・秋それぞれの季節を代表する草花が描かれています。器をキャンバスに見立てた絵画のような作品です。

底まで見通せる透明な海。

そのような海を取り戻したいという思いで描かれた作品です。



きたやま たいと
北山 泰斗 (1931 - 2006)

とうし ぼあい
透視の場合

1988(昭和63)年
油彩／カンヴァス
130.3×162.1cm

北山泰斗は1931年、香川県高松市に生まれ、東京芸術大学と武蔵野美術大学で油絵を学び、1960年代から画家として活動しました。1980年代、故郷の海が公害から赤潮が発生し環境が破壊されたことに衝撃を受けて海岸や海中を描くシリーズを始めます。本作品では、渦を巻いた潮の早い透明な水辺を描いています。実際の潮が打ち寄せている海では海底まで見通せるかわかりませんが、かつて自身が見た美しい海という今は失われたものを見せたい、そういう思いが「透視」した海の表現につながっているのではないのでしょうか。

さまざまなモチーフが画面に散りばめられています。
不思議な世界が広がっています。



くまがい ぶんり
熊谷 文利 (1920 - 2001)

けー しよくたく
Kの食卓

1976(昭和51)年
油彩／カンヴァス
80.3×116.7cm

熊谷文利は1920年に福岡県の炭鉱の町の田川に生まれました。1941年から太平洋戦争に従軍し、台湾、フィリピンやシンガポールに赴きます。戦後は美術教師をしながら創作活動を始め、1960年に上京し船橋に居住しました。この作品はシュールレアリスムに影響を受けた幻想的な作品で、様々なモチーフが非現実的な空間のなかに散りばめられ、不思議な世界観を表現しています。

たくさんの顔を背景に、赤いローブを着て
キセルを持っているのが占い師です。
花札で人々の未来を占っているのでしょうか？



くまがい ぶんり
熊谷 文利 (1920 - 2001)

ちまた にんそうらなしい
巷の人相占師

1990(平成2)年
油彩／カンヴァス
130.5×162.2cm

熊谷文利は1970年代半ば以降、占い師や祈祷師、魔女をモチーフとした作品を多く手掛けました。この作品もそのひとつで、赤いローブを着た占い師がたくさんの人の顔を集めて人相占いをしているものです。占い師のぎょろっとした目や散らばっている花札などユーモアを感じさせる部分もありながら、全体に不気味な雰囲気がただよっています。厳しい戦争体験をした熊谷の、戦後の平和な社会のなかで浮かれている人々に対する警告を示す作品です。

何が起こっているのでしょうか？

大きな口のモンスターが顔を飲み込んでいます。



くまがい ぶんり
熊谷 文利 (1920 - 2001)

こくし
黒嘴

1999(平成11)年
油彩／カンヴァス
130.3×162.1cm

79歳の熊谷文利の作品です。巨大化した口の中に顔やサイコロが飲み込まれていく空想画です。左上にはイカの姿が描かれていることから、ここは海の中なののでしょうか？作者を知る人が言うには、熊谷は無口であったそうです。この作品は本人に代わって饒舌に何かを語るために、大きな口になったのでしょうか。謎が多い作品です。

武士を描いた歴史画です。

甲冑や弓矢の精密な表現に注目してみてください。



こだま てるひこ
児玉 輝彦 (1898 - 1992)

ほちまんたろうよしえ
八幡太郎義家

制作年不詳
絹本着色
35×91.6cm

児玉輝彦は大正・昭和期に活躍した船橋ゆかりの日本画家です。新潟で生まれ、画家を志し、1926年から船橋に住みます。磯田長秋と親しくし、1943年には意富比神社(船橋大神宮)の杉戸を制作するなど地域に足跡を残します。本作品は源義家を描いた歴史画で、武者の姿をした義家の甲冑や弓矢の精密な表現が繊細な美しさを感じさせます。

ヒマラヤの山々の上に花かごが浮かんでいます。
不思議な光景です。



こみやま しゅん
小宮山 俊 (1918 - 2006)

れんさく ぼたんまんだら
ヒマール連作 牡丹曼荼羅

1990(平成2)年
岩絵具/板
60.6×40.8cm

作者の小宮山俊は東京美術学校(現在の東京芸術大学)で日本画を学びましたが、卒業後は船橋でデザイナーとして活躍します。船橋ヘルスセンターの内装デザインが代表作ですが、60歳を過ぎたころから再び日本画の制作を始めます。取材旅行のためにヒマラヤを訪れ、その壮大な風景を目にした感動から、ヒマラヤを題材とした宗教的風景画を数多く制作していきます。本作品はヒマラヤの山脈の上空に花かごが浮かんでいる不思議な光景を描いたものです。曼荼羅とは密教の図像ですが、本作品では宙に浮く牡丹で示されており、その神秘的な美しさが印象的です。

樹の幹がねじりながら空を目指して伸びていくようです。
自然の生命力を感じさせてくれる作品です。



しばみや ただのり
柴宮 忠徳 (1938 - 2007)

じゅかい
樹界

1984(昭和59)年
油彩／カンヴァス
130.3×193.9cm

長野出身の柴宮忠徳は東京学芸大学で油絵を学び、市川市の昭和学院高等学校で教鞭をとりながら制作を続け、1967年に結婚を機に船橋市海神に移り住みます。本作品は「樹のある風景」シリーズの一つで、子供の頃に故郷長野の山で遊んでいた大木をイメージして描いています。よじれながら燃え上がる炎のようにデフォルメした幹によって樹木の生命感を描き出そうとしています。

人が去ったアトリエには1枚の絵画がのこされていました。
部屋の主はどこにいるのでしょうか？



しばみや ただのり
柴宮 忠徳 (1938 - 2007)

え ふうけい
画のある風景

1987(昭和62)年
油彩／カンヴァス
130.3×193.9cm

描きかけの大きなキャンバスがのこされた画家のアトリエです。キャンバスに描かれた風景と外の風景がつながっているようです。室内には人の気配がなく静かで、外には猫がいて部屋の主を待っているようです。孤独な画家の心象風景なのでしょうか。

赤・緑・青・黄と鮮やかな色合いで、
様々なイメージが描かれています。
ここではどんな出来事が起きているのでしょうか？



しばみや ただのり
柴宮 忠徳 (1938 - 2007)

き こうず
樹のある構図

1990(平成2)年
油彩／カンヴァス
130.3×194cm

柴宮忠徳は、赤、緑、青、黄といった鮮やかな原色を用いた色彩表現が特徴的な画家です。「樹のシリーズ」は故郷長野の山の中にある樹をモチーフにした作品群で、本作品も樹のある風景に取材したものです。対象を写實的に描くのではなく、その形状と色彩に分解し、画面のなかで抽象的な形態として再構成して描くことで作者の想いを描き出しています。

空には雲がたなびき、光があふれています。
よく見ると左側に虹が出ています。
雨上がりの海辺の風景でしょうか。



しみず みつこ
清水 光子 (1920 - 2016)

とうだい
燈台

制作年不詳
油彩／カンヴァス
59.8×71.1cm

1920年に朝鮮半島で生まれた清水光子は結婚後船橋に移り住みました。そこで出会った椿貞雄に師事し、油絵を学び始めます。第1回千葉県美術展覧会(1949年)や国画会などで入選するなど女流画家として活躍します。船橋市美術連盟という市内の芸術家たちのグループの結成にも参加し、地域の画家としても活動しました。本作品は燈台がある海岸を描いたもので、色彩豊かな表現が印象的な一点です。

穏やかな光があふれる海辺のまちの風景です。
船橋に住む画家が描いた暮らしのなかの一場面です。



しんぼ わかさぶろう
新保 和三郎 (1928 -)

あかはし ふな
赤橋のある船だまり

1996(平成8)年
油彩／カンヴァス
130×162cm

新保和三郎は船橋市美術連盟会員として船橋市展に度々出品した地域ゆかりの画家です。作品の多くは船橋市の町並み取材しています。とくに船橋の港を題材として、人々の暮らしの中にある海の風景を淡い色合いで表現しました。本作品は船橋漁港の小型船が停泊する船溜まり取材し描いたもので、赤い橋が印象的な船橋の海辺の風景です。

工事現場をのぞいてみると、ひとりの人物が立っていました。
ここはどこでしょうか？



すずき よしお
鈴木 善雄 (1941 - 2016)

むだい
無題

1970年代
油彩／カンヴァス
97.0×130.5cm

船橋市は1960年頃から1980年にかけて、近郊都市として団地や鉄道などの大規模な開発が進みました。鈴木善雄は開発され都市化していく船橋のまちを冷静に眺め、それを絵画に描きました。画面には機械的に働くロボットのような人間が描かれ、工業化された都市の無機質さや冷たさを感じさせます。

絵をよく見てみましょう。何が描かれていますか？
ひっかいた文字のようなものが見えますか？
これはなんでしょうか？



すずき よしお
鈴木 善雄 (1941 - 2016)

むだい
無題

1970年代
油彩／カンヴァス
130.5×193.5cm

鈴木善雄は1941年茂原市に生まれ、東京芸術大学で油絵を学びます。美大志望の学生たちの研究の場を千葉県内に作りたいという思いから1967年に「船橋美術予備校」(現在のふなばし美術学院)を開校します。現在まで続く同校の存在は県内の美術教育の拠点となっています。画家としての活動も続け、1980年代は船橋の街中を取材した作品が多く、本作品は落書きがされたコンクリート壁を写し取ったもので、薄汚れた都市の姿を生々しい物質感で表現しています。

空の上から海を見た構図です。
鳥の影が海の波間に映し出されています。



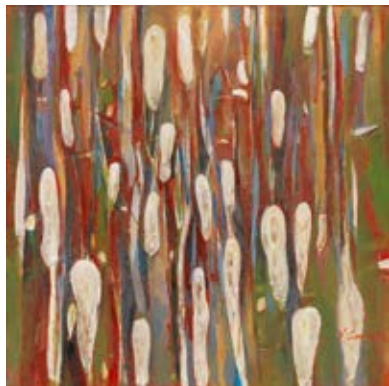
すずき よしお
鈴木 善雄 (1941 - 2016)

はこうちょうえい
波光鳥影

1991(平成3)年
油彩・アクリル／和紙
73.0×91.0cm

1990年代になると、鈴木善雄は故郷のそばの大原にアトリエを構えます。それまでは船橋に住み、ふなばし美術学院の経営と教育の合間に制作をしていましたが、アトリエを構えてからは大原の自然や海を取材した、のびやかな風景画が増えていきます。この作品は空の上から海を見た構図で、鳥の影が海の波間に映し出されています。鳥が海上を飛ぶ疾走感が様々な色彩による波の表現から感じ取れます。

アトリエの庭先に群生する蒲の穂を描いた作品です。
天に向かって伸び上がる穂が生命力の強さを感じさせます。



すずき よしお
鈴木 善雄 (1941 - 2016)

がま ほ
蒲の穂

2010年代
油彩／カンヴァス
117×117cm

作者の大原のアトリエの庭先には蒲の穂が群生する沼地がありました。晩年、作者はアトリエ周辺の自然に取材した風景画を多く手掛けます。この作品では力強く空に向かう蒲の穂の姿が、自然のなかでのびのびと絵を描く作者の気持ちと重なりあって表現されているようです。

まつ毛が長く彫りの深い少女像です。

当時、日本に紹介された西洋美術に影響を受けた作品です。



つばき さだお

椿 貞雄 (1896 - 1957)

やえこ

八重子

1918(大正7)年

12月8日

鉛筆・水彩／紙

20.7×18.3cm

昭和初めに船橋尋常小学校で図画教師となった船橋ゆかりの画家・椿貞雄の作品です。この少女は妹の八重子で、師の岸田劉生が自画像や家族の肖像画に取り組んでいたことに倣い、椿も自画像や家族の肖像画を多く描いています。本作品は北方ルネサンス絵画やアルブレヒト・デューラーを意識した作品で、彫りの深い顔立ちを鉛筆の濃淡で描き分けています。椿の大正期の鉛筆デッサンの作品は現存するものがほとんどなく、本作品は極めて貴重なものです。

色とりどりの大ぶりの牡丹の花が壺に活けられています。
一枚一枚細かく描かれた花びらが牡丹の美しさを
表現しています。



つばき さだお

椿 貞雄 (1896 - 1957)

ぼたん

牡丹

1931(昭和6)年
鉛筆・水彩・墨／絹
67.5×62.5cm

この作品は、もともとは羽織の裏に描かれていたもので、現在は額装に仕立て直されています。花瓶に生けられた牡丹の花が水彩絵具と墨などで東洋風に描かれています。この羽織の持ち主は、船橋市で医師をしていた清川家2代目の弘道です。弘道は書画に造詣が深く、地元船橋の画家である椿貞雄の支援者・パトロンとなりました。弘道はそのほか船橋で活動していた日本画家達の作品も収集し、それらの作品は清川コレクションの核をなしています。

四季折々のおいしい食材が並べられています。
あなたの好きな食べ物はありますか？



つばき さだお

椿 貞雄 (1896 - 1957)

しゆんかしゆうとうず

春夏秋冬図

1934 (昭和9) 年初秋
水彩・墨／紙
133.7×33.1cm

縦長の紙にかぼちゃやスイカ、なす、桃、柿などさまざまな野菜や果物が描かれています。この作品は、椿貞雄が清川家を訪れ、即興で描いた日本画です。この作品が収められている箱の蓋裏には、椿の自筆によって「昭和九年初秋於清川氏宅 始めて長き紙に描く／其意味にて面白きもの也」と記されています。

夏休みは海に行こう。

昔の子供たちも海水浴や潮干狩りを楽しんでいました。
船橋観光協会のポスターです。



つばき さだお

椿 貞雄 (1896 - 1957)

ふなばし観光協会

船橋観光協会ポスター

1938(昭和13)年頃

水彩・クレヨン・墨・

鉛筆／紙

78×55cm

1938年頃制作された船橋観光協会のポスターです。「大プール」とは船橋の割烹旅館「三田浜楽園」に併設されたプールです。描かれている少女たちは椿の娘たちでしょうか。万歳している女の子や潮干狩りで取れた貝を掲げる女の子の表情から、楽しい磯遊びの様子が伝わってきます。

朝日に照らされ赤くなった富士山。
かつては船橋小学校の校長室に飾られ、
多くの子どもたちに愛されていました。



つばき さだお
椿 貞雄 (1896 - 1957)

あかふじず
赤富士図

1940(昭和15)年
油彩／カンヴァス
60.5×80.3cm

時期は不明ですが、椿貞雄が船橋小学校に寄贈し、長く校長室に飾られていた作品です。椿は1926年に船橋小学校の図画教師になりました。1928年に船橋小学校を辞職したあとパリに留学し、ヨーロッパ各地で本場の芸術を学んできます。帰国後、日本、西洋という枠組みにとらわれず、日本人の精神を油彩画で描こうと決意した椿は富士山の絵を数多く描いています。富士山はヨーロッパから帰国した椿にとって、日本の象徴ともいえる題材だったのでしょうか。現在、この作品は船橋小学校にはなく、船橋市所蔵作品として保管されています。

果物や野菜が描かれた静物画です。
桃や冬瓜の表面の質感や存在感を
細密描写で丁寧に描き出しています。



つばき さだお
椿 貞雄 (1896 - 1957)

とうがんももぶどうず
冬瓜桃葡萄図

1946(昭和21)年
油彩／カンヴァス
33.2×53cm

椿貞雄はこの作品で産毛のように柔らかでサラッとした桃の表皮や粉を拭いている冬瓜の表面の質感など、果物や野菜の姿を油絵具による細密描写で丁寧に描き出しています。椿は1932年に絵画の勉強のためパリへ赴きます。ルーブル美術館や各地の美術館を巡り古典から現代までのヨーロッパ美術を実際に見て、パリで自身の展覧会を開催するなど多くの事を学びました。その成果をこの静物画から見て取ることが出来ます。

ふっくらしたほっぺたとつぶらな瞳が
かわいらしい赤ん坊を描いた作品です。



つばき さだお
椿 貞雄 (1896 - 1957)

さいこぞう
彩子像 I

1950(昭和25)年
コンテ／紙
26.6×19cm

椿貞雄は画業の初めから家族や自分をモデルにたくさんの人物画を描いてきました。この作品は一歳になる自身の初孫の姿をコンテでスケッチしたものです。じっとしていない赤子をスケッチブック片手に描いた椿の姿が思い浮かべられます。ふっくらした頬や唇のかすかな赤みから、孫への愛情があふれんばかりに感じられる作品です。

船橋の海で採れた魚を描きました。
日常の暮らしの中から生まれた作品です。



つばき さだお
椿 貞雄 (1896 - 1957)

しまだい ず
縞鯛の図

1950(昭和25)年
水彩・墨／紙
44.3×51.3cm

船橋の漁場は江戸時代に御菜浦として徳川家に魚や貝を献上するほど豊かな海でした。椿の作品にも、知り合いの漁師から鯛や鯉、蟹、海老などが届けられ、それらを描いたものが多く存在します。これらの作品は墨や水彩絵具で実物を写生した写実的な絵画であり、うろこの一枚一枚まで描きだそうとする緻密な表現が特徴です。

縦長の画面の上部に富士山が堂々と描かれています。
この作品はかつて船橋市中央公民館に飾られていました。



つばき さだお
椿 貞雄 (1896 - 1957)

ふじず しょうじこ
富士図(精進湖)

1954(昭和29)年(55年加筆)
油彩／カンヴァス
98.7×64.8cm

1954年、椿は富士山へ写生旅行に出かけました。清川尚道に宛てたハガキには山梨県富士吉田市に滞在したと記されています。山梨県の精進湖側から望んだ富士の堂々たる姿を縦長の画面で描いたこの作品は、翌年の第29回国画会に出品されたのち、同年秋に新築落成したばかりの船橋市中央公民館に寄贈されました。

山頂から噴煙があがり、その周りには雪が積もっています。
ここはどこでしょうか？



つばき さだお

椿 貞雄 (1896 - 1957)

さくらじまはつゆき ゆき さくらじま

桜島初雪(雪の桜島)

1956(昭和31)年

油彩／カンヴァス

45.8×53cm

戦後、椿は千葉県内をはじめとして様々な土地を旅して写生をし、風景画を描きました。晩年の1920年代終わりから30年代にかけて、九州の長崎・鹿児島へたびたび写生旅行に行きます。この作品は、1956年3月に鹿児島へ写生旅行をした際のものです。桜島を描くために滞在していましたが、出発の日の朝、3月に入って珍しく前夜から大雪が降りました。雪に包まれた桜島の意外な景観に感動し描いた、一連の「雪の桜島」のなかのひとつです。

雪や枯草、石畳のモチーフと「空寂」という漢字を使って、冬の物寂しい印象をデザインした枕屏風です。



つばき なつこ
椿 夏子 (1926 - 2004)
くうじゃく
空寂

1981 (昭和56)年
型絵染／麻
50×170cm

椿貞雄の次女である椿夏子は、女子美術専門学校刺繍科（現在の女子美術大学）卒業後、父の紹介で、染色家・芹沢銈介（1895-1984）に師事し、彼が創始した「型絵染」という技法で作品を制作しました。この作品は、石畳や雪など冬の風景を想起させるモチーフの上に「空寂」という文字が大きく浮かび上がります。空寂とは、静まりかえってもの寂しい様子を意味しますが、この文字は作品の説明ではなく、情景と一体化した表現になっています。

表は赤一色でひし形の文様、中は青や緑、黄の花の文様で彩られている、華やかな飾り筥です。



とみもと けんきち
富本 憲吉 (1886 - 1963)

いろえかざりばこ
色絵飾筥

1944(昭和19)年
色絵磁器

大:高さ7.2×幅13.2×奥行6.5cm
小:高さ7×幅10.9×奥行6.3cm

富本憲吉は、明治時代にイギリスへ留学し、帰国後独学で陶芸を学びました。白い陶器に色どり豊かな色彩で絵付けをする染付の技法が特徴的で、本作品は大小揃いの小箱の外側と内側にそれぞれ独特の文様が描かれているかわいらしい作品です。

野の花を描いた作品です。
自然の美しさを感じさせてくれます。



むしゃのこうじ さねあつ
武者小路 実篤 (1885 - 1976)

つきみそう
月見草

1955-65
(昭和30-40)年
紙本墨画淡彩
32.8×46.2cm

武者小路実篤は雑誌『白樺』を主催した小説家、詩人、劇作家、画家です。岸田劉生の紹介で上京したばかりの椿貞雄に出会い、生涯にわたって椿の芸術を支え、椿にとっては兄のような存在でした。実篤は40歳を超えたころから書画に取り組み始め、日々の生活から感じたことを画と書で表現しました。本作品は月見草を描いたものであり、黄色と緑の色墨の素朴な美しさが印象的な一点です。

船橋市所蔵作品について

船橋市所蔵作品は船橋市が所蔵する美術作品のコレクションです。これらは清川記念館と清川家から寄贈された美術作品184点（清川コレクション）が中心となっており、そのほか地域で活躍した芸術家や収集家より寄贈を受けた作品をあわせて、約650点の美術品で構成されています。

その特徴は以下の3点です。

- ①清川コレクション及びその代表的な作家である椿貞雄の作品、関連資料群
- ②船橋ゆかりの芸術家による作品
- ③船橋ゆかりの収集家による美術コレクション

明治時代から現代にいたる船橋で生まれた美術作品が多く含まれている船橋市所蔵作品は、郷土の文化芸術を始め、その歴史や人々の暮らしを今に伝えるものになります。

清川コレクション

明治時代から続く清川家は船橋市で医業を営み、三代にわたって美術品や文化財を収集し、総数は184点にのぼります。そのなかには船橋ゆかりの洋画家である椿貞雄の作品をはじめ、岸田劉生、武者小路実篤の書画や、千葉ゆかりの日本画家の石井林響、磯田長秋の作品などがあり、その特徴は椿貞雄のまとまった作品群をはじめ、千葉や船橋を中心に活躍した日本画家の作品や、著名な芸術家の南画や文人画などの美術品、幕末の学者や明治初期の元勳らや医学者の書の一群、医家清川家に伝わった医療器具や生活用具などが含まれていることです。これらは明治から昭和にわたる郷土の芸術文化や地域の歴史、人々の暮らしを今に伝えるものになります。



船橋市デジタルミュージアム

船橋市が所蔵する美術品や資料をデジタル化し、公開しているホームページです。ここでは江戸時代の浮世絵や絵本、船橋市の古写真や地図、暮らしのなかで使われた民具、美術作品、野外彫刻などを紹介しています。



船橋市バーチャル美術館

市内で開催される展覧会や美術活動などを紹介する専用のホームページです。所蔵作品展や出張美術展の情報、教育活動の紹介、収蔵作家の紹介動画や船橋美術年表など、美術鑑賞を楽しむ様々なコンテンツを配信しています。

ふなばしアートカード

企画・編集 山本雅美（船橋市民ギャラリーアドバイザー）
執筆 山本雅美、益子実華（船橋市教育委員会学芸員）
発行 公益財団法人船橋市文化・スポーツ公社
〒273-0005 千葉県船橋市本町 2-1-1 スクエア 21 ビル 3 階
Tel.047-420-2111
発行日 令和5年12月

アートカードおよび小冊子の著作権は公益財団法人船橋市文化・スポーツ公社に属します。
転載・複製・コピーおよびデジタル化等については、その使用目的の如何を問わず無断
使用を禁止します（インターネットに於けるホームページ等の使用も同様）。



**FUNABASHI
ART CARD**